

膿疱性乾癬 (GPP) ってどんな病気?

GPPとは膿疱性乾癬 (汎発型) の英語の病名である Generalized Pustular Psoriasisの頭文字をとった略語です。GPPはとてもまれな病気であり、多くの人はこの病気についてあまり知らないことと思います。GPPについて話すことで、周りの人たちの理解も深まるかもしれません。しかし、どのように伝えたらいいかわからないという方もいるのではないのでしょうか。ここではGPPに関する情報をご紹介します。GPPについて既にご存じの方も意外と知らないことがあるかもしれません。ぜひ、ご一読ください。



GPPは、まれな病気です。日本の乾癬患者さんの数は人口の約0.3~0.4%、約43万~56万人と推計されており¹⁾²⁾、このうちの約1%がGPP患者さんであると言われて³⁾。



男女比は1.0:1.2と女性にやや多くみられます⁴⁾。



GPPの急性期には、以下の症状があらわれることがあります⁵⁾。



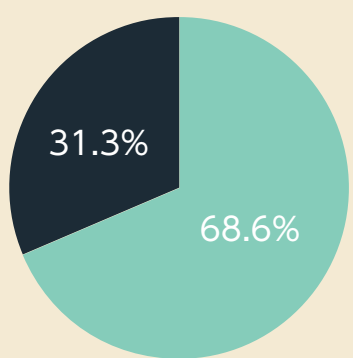
GPPは急性症状が繰り返し現れるという特徴があります⁶⁾。

いつ発症するか、どの程度深刻な症状か、GPPではこれらの予測がつかません。命に関わる可能性もあるので、早期の診断・早期治療が重要となります。症状が出始めたと感じたら、すぐに皮膚科専門医を受診しましょう。

GPPの診断には、皮膚科専門医が適しています。

GPPはまれな病気であるため、皮膚科医であっても診療経験が少ない場合は、診断までに時間がかかってしまう可能性があります。GPPの診療経験が豊富な皮膚科専門医による早期の診断・治療が重要です。

GPPの膿疱は細菌感染が原因のものではない(無菌性膿疱)ので、他人にうつす心配はありません⁵⁾。



GPPの急性期症状が現れる前に、患者さんによっては尋常性乾癬の症状がみられている場合もあり、日本の調査⁶⁾では、GPPの患者さんの約30%が尋常性乾癬(最も一般的な乾癬の種類)も併せて発症(併発)していることが報告されています。GPPは乾癬の一種に分類されていますが、尋常性乾癬とは症状や発症に至るプロセスがことなるので、GPPを診断することは大切です。

GPPがあるとかかりやすい病気は?

GPP患者さんに併発しやすい(かかりやすい)病気として、関節炎やぶどう膜炎などがあります⁴⁾。関節炎は進行すると関節が変形し、生活に支障をきたすこともあるため、早期に適切な治療を受けることが大切です。ぶどう膜炎は、眼が充血している、眼が痛い、眼がかすむ、視力低下といった症状がみられます。これらの症状がみられたらすぐに眼科を受診しましょう。



治療内容や患者さん自身が気になっていることについて、医師としっかり話し合い、うまく体調管理をしていくことで、自分らしい生活をおくることができるかもしれません。気になることがあれば、医療従事者へ相談しましょう。



参考文献
1) Kubota K, et al. BMJ Open. 2015; 5: e006450. 2) 照井正, ほか. 臨床医薬. 2014; 30: 279-85. 3) 山本俊幸編. 乾癬・掌跖膿疱症 病態の理解と治療最前線. 東京: 中山書店; 2020. 4) 日本皮膚科学会膿疱性乾癬(汎発型)診療ガイドライン作成委員会. 日皮会誌. 2015; 125: 2211-57. 5) 難病情報センター. 膿疱性乾癬(汎発型)(指定難病37) <https://www.nanbyou.or.jp/entry/313> 6) 安田秀美, ほか. 日皮会誌. 1992; 102: 971-6.